

日米交流合同音楽会 *Japan – U.S. Joint concert*

February 12, 2018

By Airman 1st Class Juan Torres
374th Airlift Wing Public Affairs

音楽は、誰でも楽しむことができる世界共通の言葉。国や言語を問わず、誰でも一体となって共有し、体験することができる。

言葉の壁がありながらも、横田基地とその周辺の住民たちは、音楽を愛する共通の思いで、2月3日、武蔵村山市での日米交流音楽会に集った。

同音楽会は、日米両国の理解と関係をさらに発展させる、パートナーシップが見どころとなった。

武蔵村山市の藤野勝市長は「このイベントによって、ここに集まった演奏者からこの地域に住む人々へと、新たな交流が生まれていくことを願っている」と述べた。

音楽会に出演したグループは、米空軍太平洋音楽隊、横田七タダンサーズ、武蔵村山ウィンドアンサンブル、入り天神太鼓保存会、キッズダンススタジオ・ヴィゴース。

「地元の地域や横田基地の、才能ある友人や隣人を持つことをとても光栄に思う。横田基地と米空軍のプロフェッショナリズムと卓越した技能を披露してくれた、チーム横田のメンバーにも感謝したい」と第374空輸航空団副司令官ベガ大佐は述べた。

チーム横田にとって、催しに参加することは、基地を代表するだけでなく、地元のコミュニティとの関係をさらに深める、絶好の交流とつながりの機会となる。

「今、分かち合っている友情や協力関係の基盤を、さらに発展させていくことを楽しみにしている」とベガ大佐は述べた。



日米交流音楽会で、独奏する横田サムライ太鼓チームのメンバー。横田基地からの出演者は、米空軍太平洋音楽隊、横田サムライ太鼓、横田七タダンサーズ。



パフォーマンスする武蔵村山市のマスコット「ムラッパー」。日米両国の理解と関係をさらに発展させる、パートナーシップが見どころとなった。